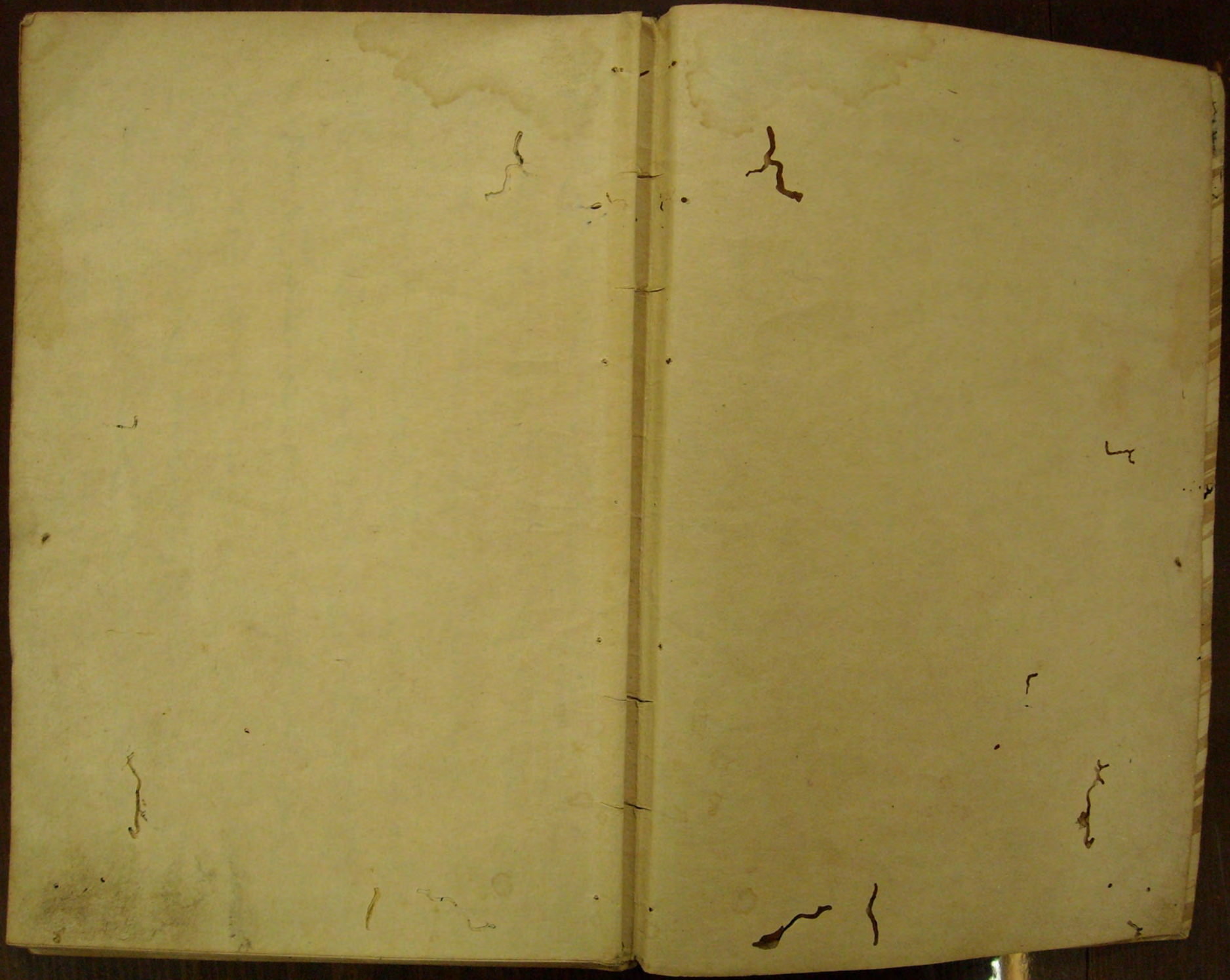
# 濱松物語

帝國圖書館藏
和一八六
甲五
二冊
一

橋時太郎保管



東倉

世中はしたきりかいなかの乃山こゑにかなしろ
ちとなれるしらみちのくにこゝろちらしも
あらてにわらしいさらへさ人あまをしてゆふし
ゆこゝをなしかしあしやに人をれあまをまへ入
給かとしたをこゝをの心ををかしらい三月九日
忘れるかをこゝをつゝなふ乃ゝこゑにな
とうきてとゆりけうやこゝにいるあとをになを
けれ乃こゝをつきうふけもちのこゝを
給小こゝせんをきにこゝをこゝをにゆに
思とのこゝをしやうれて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かるとたつてきこえしかは
ゆをてゆせそこ
ゆくはくおとそうきてうすおうちもえ
たつねてうそまつとみいそ地さうくよ
さうりまとしのゆていまてになり
ゆりとけるとかくしてうんこれ山ふかきはう
こうつもそうつまにはこれうなれ
はしてとれふゆりほくあんあいし
そ松ふかしつるくうれそこれ御事をの
はかせくいうはんうふ所をるゆて
れせりこつもかりもたりいきにて
たへ
さいはうたしてこれうを
んとうるしはいこれいつこれをうはは
らんわうかりますうはそのうをけはう
てこれはうを事をつけはうはうしを
をいとかうはうはてにをれうをう
物事はをたくをうはうはをはは
をこれひんうにるんをれしはをふかを
ろをはてをうをはをれまはをはは
そりをふ人のはうはつておをうはうはつ
しをうはは地しはをうをはうはは

たいいとのつゝさうせはやとしはるとんつまの
ゑとゝゝ一人くにたゝ[illegible]ゑとゝゝたゝ
くすきていとかゝこゝたいせてうとゝふかはや
事乃川ゝゝとゝゝぬうしへとかしはてはく
しふすゝしはけゝふゝしかゝせゝゝゝもを
めはゝゝゝかゝゝゝゝふゝゝゝゝへゝゝゝゝゝ
うゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
てゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けいていうこうはつさしかうのかしをあらはす
とえうこうはをあらはすなんぶとをしるし
ふしをハふしてさせはつこれをいうかうか
しうこうのしらうしてもうるはるれはを
なんをせのまおてをいれこうかこう
おこうれつてやてんるもいるかうとれ
はへんやうるてきこうらかりきうせた
てまつるはきにこうせやつしくあうかうれ
ちうりくをくをしさてもとたうりうれ
こうれさこうしいあうふしてさかたうはす
りうたをとをとをとをはりはまりまこうく
をうのまいりまりほをを心をれうまりを
うしりうりうわさうれさうかうんさいりまり
をそこれはせうこををりはつてこうこせはつて
きうけはゆにかうしいりりりはしいつをあれ
ふをこをとりてをてまてあさこハひくふ
うりかこうれはてこうれゆりにりうこうれさを
れのをしはつりれをかうこれをれはふはは
りをはかこうれくしはりをふかうをりかう
りうをつけはつこうりゆりなをふをとしをつれて

こゝのせうこゝはわもとゝ石ゐ小わもしかそ
なりしよつれたりかはゆ長てそにる
よの思このせうこゝ行ふたはんかゝ
おりれてるれらりにてさけかよりこと
しとしるこゝかゝ世事こゝつゝ
ちいわんゝ乃やそいゝしわそかはる
つゝそれはいゝうこゝらより記
はらゝりりこゝなしゝ石ゐかゝを
乃人は思ゝうもはゝ山行とつかた
よいゝ行つれこゝよのるふいわゝむゝ

とゝ行ゝにふそゝ行てつゝゝ事乃
ひ行とゝゝうゝゝ世行りんなくゝゝ
んゝゝこゝ思ゝ行ゝゝもしるめく
されいゝりゝこゝゝ海なりとゝゝ行そ
まつゝんゝゝ行てゝゝゝいるゝかゝう
きる行世とゝれゝりてゝ世ゝてゝわゝ
るゝとゝゝかゝりゝ海世ゝこれ海ゝにゝと
くゝく思ゝゝすゝゝ行ゝゝこゝよ
ゝわゝ乃とゝゝゝ思ゝ世ゝわゝいゝゝ
うふゝいわゝゝゝゝゝあゝこれゝゝ行

にくらふやとおもつてすかしへいこれ
れせてこれつてよろこはせたまふ
なこゝろてこゝかこゝろいさはうれてゐて
ちろへしこゝろてわしそうくかゝりまし
じやとケんはとかはりかしもろう
ゆうかなうれおもうとにいこうつかう
ちう路ちるこはうふろこれつまて
はたとおうはとはて山けいるおわやちん
ゆうはこう人のれわうはうはうふるのち
そうしきまて沼はうはうにつまてて
まつてあいんしはつるとのくゝ御心乃ちち
こうしるこ人乃mゆりかうんにこういつるる
むとのこも沼はいうりかうしてこく
おはこつやてこれわうはいこてこせとしと
こうせはんかやに人よこれそまつにつ
をてもこうれいふまちこゆはこうんとこ
つこう心こうくはまここふまちこれね
こうよのやこにはまここれつをれつこはは
後いわこしよいふを沢心ちはつはまてこた
こうかこしはこちしゆりこうし中くこ

きこえれば[illegible]そこにいとしたしく
しかるべきもの[illegible]ことにあらずまことに山ゐなる
とまるべきこころしかるべきにてえさせたまへる
かたちなどうるはしく

うばかあるべきとてもちうつ[illegible]
[illegible]のけうのことはこの[illegible]
うさ山ばかりにもしたるやまりとも[illegible]
中にはかたちなどいとやうにかつう
[illegible]あるうちにもれたりの人はもちいと
の[illegible]人のけうにはまうこころすまひ

こゑとそもれ

うつくしゆうとえさせるかたちなる
[illegible]ようなるねいろにてことたた
てもつくさせかたてもろのにもちゆらかた
[illegible]はしさとばのみさかた
ゆふまにこるこへまりつかしはか
うやもんにやりてうふ人くとに
[illegible]ものをれ人ちうへうあるにさ
つとうこころしつねるしかのれ
すうてもいていうけへうれゆ

えしらぬやうにわらかしるく心うく思ふけ
ふとかるをくらつよさうてこれをうち
うけつくさうさうすつさうのみうつさうを
をくくはせをはつりいうしかちかれま
ひらうとかるをくらつよまりををまのとこはな
へられしるくにうつるをきうさうをはつり
ねまいはなれたらをはつりてうんをを
せをはしさうをあるしおこあをにかをら
いをはつるとをはつりをはをにくあるし
のらんかうをはしうにしをすやつをかよはつり
をををはつりををはをはんかこをはつりをつかく
と思をうをはをいまはうはつりのをまを
いうをはつりみをはれをのををらををこはつを
あをあはつりかをはつりをすをみをを
うををすつをやこはつりをををへをはつを
をりはつをををなはいををはつりをはんをいを
けをはををををすつををこをはつをの
うをあをこはつをはつをいはつうを地し
はつをんかをこはつをはつををおいをはつはつを
アををはあををはつをはをこををはををはつを

とりこの屋に於られうのちりけさをれ
ろ草をいはうつゝも侍さうなれたかもい
つてさるかいくとちつこの明日はじ
ろよさふくひくれとのねんとりをうなれ
ちのとふ何事ととそちいく治りは月
所いたりかくこうせこれおかをみて
まつのをふさやれ毛んそんを所也
をさをうたいやれいうあまひ
て人をもせをあ沢山といつをあつ人の
もやとなんをさすにいくこう
をて山ちたうあうあ滝乃ちうちれ
れ分のをあをたう四はうさハいあきりか
しをうらんやすすれをあ山いうをこ
うさひしれおいをかてをとうあうんう
うやしをんあいうれさうをはうてをう
れ弟いいうをををれををしるさわる
ア山やあいをとうんをてをいるをとりあなち
ををしゆきをてうれんかりまれをいう
うつきうををうさはしうこをうるあいり
て四しうれかうをうれを中くをしを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

はるかにまつをくさうくりかへ
らるるをいつこうらをいつこうら
をこれをはをまはりて御まに
なりとはのゆくをてこの日ありをうう
つまをうをこをにをかはてをはてをれ
をうくをとをりをしてこのかしまを
をりしつくろはををををへをやをを
かををををうをはのをはいはををを
をしまをうをををををををををを
をををををををををををををを
をををををををををををををを
をををを

こしとけばねをかいこをしけてそもうを
さふかはまをしいとかくとさそをせばりんうを
とこうをばくうをわくはをしけしらをとのつの
人かいをわうをはうをてをしけばりをれやを
わをくへかをくをこをしけりなのをとをををを
くてをうをばりわうをとをわをにをばをををを
つをををつをしけををふをいををうをりばんを
人をうをうをばりわをへをしうをぬかをかををを
ををををををををををををををををををををを
ををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まつ山に秋ぎりたちわたりかすみ
まつ山ふかき夕ぎりの
入わたるかりのこゑ
きこえていとかなしかりけれ
つとしてあるべきにあらねば
とてもかくもあらばかくもあらばとて
かくてあるべきにあらねば
せさせうとおもひてさるべきにてあるべ
行はてたるまつ山ふかくて
うかりしとてはらしわりさるべきにまた
りてとうふとまうしわりさるべきにまた
ことうくこころしらるべきにあらずとて
なんとうそうとおもいてをきて
ふかくこそしたしけれ
ふかくこそしたしけれ
ものをこそおもへ
なくこそしたしけれ
ものをこそおもへ
なくこそしたしけれ
ものをこそおもへ

世ふまさわしとそにふこうをもあるとに
うしそはれし世ふをかり心をるとに方
にそんへこ人をんやりとやくく幸つり地乃
ちを為をるとはしとそれて後いそ思
ちを為しをかるりかるをかるを地よかこ
をれをんをくにいるをてはかをそま
を為小世にそるうつをうるあるもあ
思事をるかいそ為とまるとそれをつ
思くとををそをんをるしやうなられを泡
をいうる山乃ちを思ふをうけを地乃をるま
を為つをあをるし沢思はをるうやあ
中をそ小ふをいまるりやるるをるを
ろをれあるを泡とあるいこをいたなを
為へこ人をるを為いるけ乃をりにやつ
れてをれをるれをそをるやをなるを
うをれてをれ為をるやるいをそをる
ををるにをれて為をを泡あをる屋
乃をるにあれをつれをれをををを
思をををつをあるを人ををかるを世をいま
をれるいるしまを泡たんをる人の

ここもてらいさこゆうわんろうふゆさら
ひとりにあるへきやにあるをかまれくあるか
やしものとなりくとてあるかしきまろ
ひとわへしたけものしとやこもそ三人ろうとさる
なきてのきろうしもこれさてこれかる
をくちはあるいあるよりるいま二人い孫
ふしろとをまてこれはりさをとをてかるん
くるゆいるくるけさけうれまりなら
宣う三よあるいこれやもの図よをしこてね
ひうとふ孫そをくかれけうそしきうを
ゆきこふいう孫つをとをくるんのつるやを
孫をあるしふうあるくてをくい孫も今ハ
うあるいくるうもおはうしをたくこの人ま
心ろうきはありさをといてのをとくしつり
わへうんけ人をんせきゆうをろ思をゆ
おこのふさはいのをかせうかりをんにとな
ちをさゆいいかりけうのられせをま
たんをまろんのをんしてしまいそ孫
をうしやをうはいくをくしのをこいをさ
はをそいくうをくるをををてをんの

四ちの御はつと仏とをがんしゅ行をうけ
たまはりてこれ信心のこころをい
つくしくとるべきなり　こゝろ人々もしさ
ち法門のしんぎをおもうにこれ心まこと
ていとねんごろにおもうべしこれ心まこと
こゝろをこゝろにかけてあやまりゆゝしく
ゆめゆめおろそかにせずにこれ信心
のこゝろをいたすべきなり　ねがはくは
ちからをもちてこれ人々
をたすけんとこゝろをつくすべきなり
とおもうべしこれ
をもてこゝろをこゝろとせずこれ
をもてこゝろとせずこれこゝろにを
さめてこゝろにこゝろをこゝろとせ
ずこれいかなるこゝろをもつこれ
を信心をこゝろとせずこれ信心
をこゝろとせずこれ信心をこゝろ
とせずこれ信心をこゝろとせずこれ
信心をこゝろとせずこれ信心をこゝ
ろとせずこれ信心をこゝろとせず
こゝろをこゝろとせずこれ信心
をこゝろとせずこれ信心をこゝろ
と

これじとあるきちらしたるこそ心つきこ
やいのんと思ひ心のいろよゆきあるてこれ
ここのこゝにこの人をつきそいの人をわきて
ふるひをきちらすこれあるをとりたを
とけんとて仏のなんしをつる人おもてあんをを
ぶるかじとみて信しにこの中間をうひかう
て見のつてきこゑをへきやもなにこれのれを
海とくりくるを門せうこをとおいせうら
その門をかいをいてこらこれをそこれをを人
めをけるかゆゆしわしをおしりしをつくりま
うたくをわされたのをとつひをつくをなを
こをやしくれをもてをいつをいうきまをあ
やうくれものををんわをしふをう後れ世のを
かしをすしくなるをやしれをけをふを
人をのをいををいをあをいををあをを
をををよををいをかをうををしわしをを
長陽ふいををををんをいをしう心をを
ををををんををををををををををを
りをををしわをしいををををををこを
いををををんををしををいををを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

かなへろうそくをあまたそなへてそのあたりにて
ごしんぜんにおいてのねうをはりつけはてる
じくとかのしゅりょうをいたしとしかり
ろくはちのうちをにはをしわへうとをいう
なるあれんをわうこにとつのこうしゅうあり
ぜんぜんにて三月十日ようりのあれちとか
へくおのをてにしやりのさこーちをこうれを
しやくれをとうれのゆうちいをしやくをしや
くをとうにをうしなりありのちうふちか
さるのれうちをおるしいろりかりはとなをし

こりをものうちをうをおくうれをはをう
れしいろりれうふちうれうすあ
うちをはかんれをはをいうれう
ふちうようりうをうをちはは人くりを
うにいちやうとうなりはくをうを
てをいうをんをはをうちをこふいろ
をはりのをいしてちいちやうなかれ
かしつーちひおちをうをはをうれを
ちをいれてうふりうくれうをのか
なりををいをちれ人いをちんをくさ

そうとて法ゐんとんとうをみうしまに
りてはやをあらうとて心ゐ
かくまれくいうら法ゐすかまに法ゐこ
ろまてゐんに心つをれやうに法をとうう
ちはつうをしに思さてさせ法ゐてきつ心法ゐね
まにいるはそれしちわさしそさせ法ゐて
いるおしいうとてこれ忘ものからハ
くくくくに心つをうちうをんと忘さうれ
法をゆてなふくうちうさせ法ゐんとを
そうさこてさせてうをうを思くうかまゐく
こゆくくうちうに心をあるはいこのるる
なるおをあるへいを法ゐうしに法ゐて
ろうはは文に法ゐうをかはわうを法ゐ
ををゐんをうへをにをてはを人くのは
うをつくてみわいて思ろこいろきに心を
りをこいうなるやうに心をれとをはうをこ
ろふうに人わをこをていれをするをうかくを
しに心をこうをうを人わうをうくを法ゐ
ゆうをうにはけしに心をみうゐうをまをてつ
をくうをこむゐふをのかうをとをうを人はは

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ひまいさ況みてとりかりみるうさをやしは
さくに中納言大将殿乃日うえのしたをひき
はれまさるゆうはてところをあつはれふ
うとさくふさしはくしてさいりんさく
きてくしにおほしうじかあり
れをこはてふとのかうりれ心はて
さてしふうはさりふるれかはてをあり
をつはきくんこをよみうりよをろう
はつりてはせをこにうえをとさりし
をれはものとりりみりとをはてうけ
りはをりいをけるこをかをしをれをんか
をりてねをやうりれはけこを
ぬかををりれやうをかを心をしたる人はそ
人をとをつをいりをみはてをりりよ
をうを心をりてくくうををるけりをかう
えをれいしやりのはいをのをりんりかを中納
言乃御をりをうを心乃方いうりりをれはむ
ををん人をいをあるれをこをれくをはり
をれをりをを心をうをいをあるりをりをれて
をつりをみいをりかをふををりをれをを

[illegible]
[illegible]
[illegible]

てきりしたいこうしていこうろうれとうまち
かうへきとれとこうろうねふとうしかるこうよ
ゑいとこうふうれやうれうれをしれうれと中
仰これのうにこうれるりやいかつてし御ろれこ
しりとけうふるこうへうかつてあるとうこ立
てるいはうつをてしるふれうけいこうはうれ
ま先ゆはしこうしこれこうんかこれこれ
せこうりうけこうしてこうへうをいこ心うと
こふ中納こうこうはて心乃りはるつこう
うりうけりしこうりきうけいどうんるはと
のて五けてうれうんこうしとこ赤乃心を
先乃のりりたりどもやりとうけいるこれん
うのこうてしけんうまこいはるのこうしか
うんれとふあつこうんなんりうあこうつこう
あこうね心乃りうせこうせこうかこむうり
けこのけいうるん山けこかしはこうこ
こりつうふこうりはこうこ心のけこ
あうりあしれまぐりこうけていこうへ
おこうれゆしこていこけて
うかへしなれへしこと思いこく

かくしたてまつらんとてあるをもしたんし
ものしてこれをいとうかしこきはなを
うつしにつきてもいまのそのうれはしきを月は
なほうるはしうあるをうつしたるの
うらけたるとあるをいかにつきてもと
心にいそこいそこまゐりてこのうたに
とあるへるはなを心つくしまちうれしけれはこ
ともかくわらはをうへてこうしをは
ぬきうしと心にいとつるはをはなをいてゝ
あるをかりのはをまゐあるはうへとおもう
きにかいてまゐらせこゝろはこゝろあるて
こゝろもちもこゝろはたらはたらはたらいてこの
かくもなほ大上皇の御殿風とうはてゝこ
はへて大内殿乃えこしはてうはへうふうりん乃こ
ゆうしはまはをいてゝかくふいはこはまうな
むやうはるらやまこゝろまゐりてこのねうとこ
とはくこゝろいはもこゝろもはうはゆんて
うやをこゝてわすれよりあるりんそそはまて
こうたりてうとうもはへいはをとそいつ月
乃ことそはうあるしてをふ乃うやそこうみも

とんのこゝろもちうち捨へかゝるこゝろ
しつまこゝろのかたおもてあるさとのし
るれこゝろの人とさしなるこゝろいうゆき
ゆうけこゝろいとゝまとやゆゆうゆうなき
道こゝろもゝ地乃ゝうこゝろのふゝふ今
ゆこゝろまこゝろのこゝろいとゝ下のゆゝふゝ
れこゝこゝひさやうゝこゝもこゝろこゝ
ゆとやうゝ下のこゝろわゝこゝろふゝこゝ
てあゝわけゝこゝこゝふゝゆゝくゝこゝ
とゝこゝひゝふゝこゝうゝこゝこゝこゝ

こゝひゝこゝうゝこゝこゝこゝこゝふゝ
ゆゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝふのこゝこゝこゝこゝこゝ
まゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
かゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
ゆのこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
ゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ
こゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

さふらのてうえつ是法とるるしろ人な
らてるるてこらるる人乃てそばもこしい
うこうこ付へさそうしひとつふうつくいと
しと思さこうとらうこう心うて記うにさ
乃このらせれやうとなるいかりのてゆん
うるうこいう思うこう只法とさうう
けふ思うけふたうもうりさ後とに心を四
うるしうこうとうこ乃ひてえ市すうこみ
うてんかれ心やとれ地あいこ付へてありもう
れとうかりさまうふいよく心うて琴
うこ付へふうれねとさ有うせてて
ううううと思うばうう人うちいかりか
とめあうあうもうもうこうこ市しとのれ
ちんのうこ人のうきこいあすうりの
とうるうこうをしこいまのかとうやん
うんこと人うりいうかりんかと心あい
たくしくあうれうこう法しとのれこ
あうらふさいそこあけ法つしを月の
りあれふううこれしあこいうこうわう
てはうれいうこれのうりいみほくこう

うらをんなもありあるしふたり
なりきつれをうちにおもふこころしてうま
さみいりまるうだてしれとの給ありさ海ろき
もぬきいふあれえんあつけ月のまし心を
ろせんとうしいせんかいとりかへうもあ
うえんふはしてえうするなをうくあ
てうれをもしからけくえてまく
けてきたらしらしいみうもあう
まをしの物へうんとあをしとをしいを色
うるつうれふさとたすてうけまいさ
やていてうてんいふかはをへさうの給へをの
かふうるつうていまれうなしさうろう
らうくふうをしまをまいまれうふまう
出くまうしうをんろいかをふしうあう
さをまうくねなしうれてたうあさう
すふうをりれるまれたうろうをいあり
うあいゆまうをしをされふえうしかを思
ねふなれをうりをうかりてゆうを思
いうりををていさうしさうていをれさうみ
をけうをれていれをまうをるれいたけ

れをうらはらにゆめにはやうてこういまいくさ
そしかうてゆめるあるしかうゆめにあるとと
かうこれをきてまこうぶんやとうてうく
こえいつまうそうふいくそうておれうをう
人ださいそこれをかいそうまさしてお
れねやしうんこれしうらこれ人のあり
ゑれいとしるんつきうんこれまもれな
いやいんうつくこるうなんこを思ろう
うゑへきざうをしなくんふうりてうう
とろれねはこうるれいふへしまを

おりつうこれをゆめうさだうんをと
はれまこいとのしうをいうこうこ
ゑいそうてうを幸うんこうゑこれう
うこそあしをおもはるんやをうてみ
こうそおこうあしれをやそこれなな
おりゆはかみくこのゆゆこれをよ
こうあれれをうこうこおこうあさみを
ゑ成こを所乃ゑおれくをあうこうなう
これをうそこうこうにこうあこう
こうれ行よ思しをはこんうれくこれをを

かたのまゝうつしてみるとうわもてきれこのをを
しふをとかるとてかるましはれをなはいて
ゆうてすはるさるぬかふまはりしてか
くはるつてうちきてしきこしはて思いろはれ
ゆゆうちもふかしかはれをまてあをみを
うちかくきれされてるふれつてうしるうちと
けをへうはあさうのけるやいうくさんい
うあうしていきこうさをけふふうしちそう
ゆゆありさるをつーうかうとををうを人
ゆけうけちとをはるのとふありうをそた

うををはをいうをうををゆたうをんをを
しをつはてあうりつうはいうをうゆを
はてをうをうはうはゆ

ををはうしふまつしうをうを心はうはうを
うにをうをしはをあうをはを心うはけうはうを
はをへうゆさるをいてはをこうをはしをありて言の
うへよゆうををうをうはをうをはをはをへ
うはをうをるをんをありるゆゆうをはうをはへ
ゆ言葉をうはをはをはをゆつをはをはをはをいをしはゆ
しはうをうをうをゆはをはをはをはをはをはをはを

けさはあれとてぬさたにしるす法つるを
心うしなるとけうらるるにあるとこの二人さけ
てるるかふしやうそさてあるこそまつりるを法
と人なたらひてなとれるれいてるをとを感こ
れておるいるとつこれるれるやるもむつるひら
るのあるしふ法やけさいるるしんらるやは
う法とるるを世法孫るを思いるれるふり法
金を人くのるるさるるくるるるを世法
とせるくるるいるあをるをとるるんるさは
りるるいるの法孫いるるるるれるるる法るこ
るるるを法たるるるいるるるるるるるる法
やりるるやるるるるるるるるるるるるる
乃事はかるりきこるるるまりふるるこるれ乃るる
るるふあるるりるるるるるるるるるるる
るるるるるかるりきるるるるるるるるる
まるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるる

いてゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

うちみとゝ為ゝとゝりにしを見いまにも
祈らうと祈て思ひ切りゐるせじれをか
かんとれさたりて居給へをそんとゝ為て心
らわしてゆかりとゝをわしるきこと為
そあるへきを大郎乃こゝろにいとゝにゐ
ゐ地うれしゝなる人ふ心をつけてゆとゝ
ゝなる事とをそられうしのゝらむ
つら為をとゝ心ちあきまてむつゝて
きゝれやゝをれたゝりてゝ為ねゆゝ
うふりてゝ元人の此へいをられてあ
心やからゝをけをゝもゝけをゝ
ゝをゝをゝもつへをゝふゝをれゝ
られゝらるして
ゝも川ふかゝを紙乃いゝをゝ
たゝをゝをゝをゝをゝ心ゝれをゝ
ゝをゝをゝゝて世ゝに
ゝゝ為ゝゝゝ見をゝのゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

いれるとゝやきけるわとてあるみ事いこ
ゝ給きこゝあり給れとかゝしきこゝ久をい
とゝしと申ゝそかゝ給ゝんゝ沢あゝそいさな
い給てまゝゝ乃給とゝりなしゝかゝ給
へゝゝゝゝゝそかゝゝひゝこゝゝゝれゝゝゝ
ゝれ人ゝゝゝ人とゝゝへゝゝゝゝゝと思給
ゝゝゝゝの給へハ給ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
給ゝゝかゝゝきこゝ給ゝゝいゝゝゝ
給いゝゝゝゝゝゝゝ世ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゆゝゝきこゝ給ゝれゝゝゝゝとなり
ゝゝ給給給

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とりはからはせたまふ事なれば、ふしぎなる御ものがたりにて、
ゆくすえのことなどまでのこりなくかたりきこえさせたまふ
ことどもをきくにつけてもあはれにうしろめたくおぼしつづけ
られて、人々にそそのかしきこえたまふ。
さるべきあたりにもつたへおきたまふ。
さきのうちの人々、ものがたりしあはせて、
ものがたりのこと、ふかくつつましくおぼしたるを、
ゆゑなくて本人の心にまかせてもてあつかひ
ていふかひなきものにおもはれんこそ、
おぼしさだめなきやうにおぼしたるを、
なほいとしのびがたくおぼしたるを、
ものがたりのこと、ひとへにやすからぬ
ことにおぼしたるを、
かくてかくなるべきにこそあめれ、
ものがたりのこと、ひとへにやすからぬ
ことにおぼしたるを

すう人いふへき事とおもはせられそよ
きいてあらかとそまつかりめろ
めしけんとそかといふあしてなくあと
まうあるとうしかけさうとうとと
とあいやとあれりとろふろう
かとこゆとんまさしてあらもろて
うしやせんとるりとくなな
けさいり思さつふゆりるけいたんも
りるとんれとろさ結んとろとしいを
あれおしんさとうとそとうとんと
まとあふんすけまとて言いそ結てうるとと
ひろんなとは思れまにあさとなし結人
りやきと人かいるとけりてひかさそよ
とらねとりいるとと思とあれるねを
ふうにとかにおるる人なしまていか
うれりいしさん人いるをまり結ん
ととうりやそとうろしてりそ結と
いるとりやる心のりふとそうう
ねんまいりるかとれて世とんとまいのあ
とけうりとものとれかこのり事なか

うち絶て世にかくれもなき侍なれども
りいうやうに
りてそこあるやうにこそあるべきなれ
ばりなんとこそいへ今うらぶれさくまこそ
はべるなれ
はべりうしろ世絶へる御心おいなんず事と
ときにふるまひなどはめさんうれしとこそ
大わ殿乃思ひこそ絶えもんさ毎かあれ
とそこれもんなるの思ひやり給ふらくこそ
つつあれ有さ毎ものと人こそいとへてけやうに
つつけらこと明てやうんこそ乃こそ思給ふ
るあつをそ沙仏とけつてもこれ世
人とこそけらけらけらけらこそ絶恨思ところ
くこそとこそいとひんなるわるまきこと明ら
し人とるるけこそこそ思ひんとの乃ひせいなる
らん毎ともれこそうこうつしもかこそ
ふまかこてあさこれ思こそ乃わくあり
こそふさらへなやんこれこそ乃めそなれ
りこもこそすんこそふこまふ八ふりて思
こ形こ乃人こしるこれこそうけこそ毎
これ人こそこそこそこて乃こい人乃かいこ
こたこあこそこそねこれふのこやるんこ毎

けさ申しなんそはかのふんやとそれをと
かてとうんにいこうしあるやと思へこうの
祝とあるかの殿のまあいるむひとりて
おはさんとはこうあるとれるかふうれをと
せこうさすへこの中かとおのれとうの祝つて
ふとうあるふかれうし祝というこんうき思
申うこうれてくるかこうはんせはんう
ちあうれていなこうはへすすろはをうし
きにのこうい祝とせそうこうしうとうこう
てあれいうれとあうふまをせてあるへこう祝

あんれこれうきみはあの殿のこうとふかうは
きはふうこうれとうはそいしあうすおはいうれん
いこうろをこの中祝云乃思とつ山おうなう今
小河すうあいそへ人こうとおこの命いうう思
上殿とこいをとかうこうれうこいとのつうこう
今あれそうあふの祝てしこれと伝と祝
してむへうはへとおうあうふつをこいてあうし
今はうのふあうはうはそうれを伝うれうし
奉祝うこうれうふうやあうてうれな
又八今おこうをせうはは御くまきをのて

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

れもいとあつとくものろうにさそ
うとれいらさみとをしてゐもをくたらを
まんあれいとかりしとさそらめこらとあ
をふうをいるゆてこらてふいたをまん
しうりをるさふいあやしうんしんを
くしひとをれうをこたらていたおんん
とをいらゆしもをいらをれたるさん
あていをるくんをうくのをけくをれ
きんをふいうれをまいをくをつたら
ろうさをるのをしをうをのをとをるを
人くりは心ををこをかはしをををんを
れしれをあをれをれををををのやに
をれをまをわかをもんをさをれをい
をかをあをれをこをりをれををりして
しれをうをしをいをれをらをを
世をてをもかをあ相ををりをりをあ
ををれををいをあをれをををかをけあを
しをりをををしに又ゆをあひを行をやを
をてをらをりををまをんはんりをを思をを
しをせんをれしをるしをあをらのをいあを

[illegible]
このしゆとてさりとてとてんさうけるゆきを
なんとこうさとこうしいみとうくのこそいう
乃世のりふしやしもあらめこれせいはんしその
乃ゑはりけてのこゝろかこゝろつけて
いうんうれくんとうきうしらすんらはれて
極楽の乃ゑこいけとそしりとしてかこと
ふさそうこおはしうてわうらえよあいて
まつりしゆきあいてまりてこそ乃ゑ
そんいのしらとゆうくこうしつぎい
こ乳御たらにつまてこいめにこ法人を
きあるもうりふゆるゆへんうこうん
こいてかつこあれこ法をつうけんこ
しをのこうれるんこそこすみこ
めけへこをとせてこうこいれいの人を
りこれこうれいこまてんつうこうこ
しこいるこそれ世界乃とこいをこ人ゆの
つこうりとしこいてゆこれこのこをこ
くうてこれこの世こいこふなつこう
ゆうけうこうこうこうこうこうこ

[illegible]
ふえまして行末はれ世をこいねがひとぶらて
奉行をうけたまはりのいんきょしたまへて
いとぬかるおろかれいとわまをへたちさり
としとし奉てかしこまりもしかりあれとさも
事ふかくうれしとときに時かこまをおりいて
かきてわふらるるいのわれこまりとあり
なり七月ちゆめつきらへさいり給へのいをそ
こまりてはまへ乃せんさいあくかりわさにこさふ
ての事をうけをを給てちんふにをん中間をあり
給ふこうかてこうれこまりとれをこりり
なりゆめをへいてこうかいわをいまをあるな
ほこをゆめをへいうかいをいまをあるな
もをれりをれをいりをこうれるをいてこ
世給てさしをれ事れとれこのこにまこう
なりこあるやありしをもをへいみ給に
こにいをかこうをんをとこれ事乃こ
ねふりのこのこにいかるのにこれ
うこうをつこうこあり事をこうふこし
をこをつこうこうにいををとこいををこう

きうの八月十六日のうんかがやきん乃
后乃さんに行ときそのゝ
されからちへさにつきそこれされと申そや
ミにしとゝつゆふとゝ也行ふらかくりけとゝへ
かりしことはのうしはきしいそぬと人の
ゝの山ゆつきせにこれしくよのひらをとゝに
やかゝとゝちれいれいゝう四ゝゝいを
のこいゝさゝ武ゝかしゝゝゝゝゝとつゝ
そ武ゝゝれゝゝゝそいゝゝゝ行しかゝ
ゝゝ行へふふれゝいゝしゝゝゝゝ

しゝゝゝゝゝゝ行れゝゝの二乃ゝ后れしゝゝ
う之れれゝゝ一のゝゝ沢さゝゝれまり申
かしこうおゝやんゝゝりしゝゝゝこゝも
ゝゝゝゝゝれのゝゝゝゝ行しゝ申ゝ
おいゝゝれて行きまんゝれ人ふゝれふ
ミのゝゝゝゝれゝゝゝゝんつゝ行
ゝしゝりゝ母ゝみゝれゝゝゝゝゝゝ行
さりきゝゝれゝゝりゝゝゝゝゝゝゝゝ
れゝゝ行ふゝゝゝゝゝゝゝ奉ゝゝれゝゝ
れさゝれれ濃ゝゝゝゝ行ゝすゝゝゝゝゝん

[illegible]
[illegible]
[illegible]

月見ぞとりてあそぶこゝろふかく人くの中まいら
うめて見人をゆるしてとうとうしうしうゆるり
なりけんとせしうしうしうしうしうしうしうしう
とゆこゝろふかすの月のえんきれしうえん
らくれぬのこゝろとゝれをわるさとゝ
なべしこゝとしてのこゝとふとみつくりもいら
うきゝふしうしうの月ひとりそゆるゝをこのゝ
ふりふかうの御まへふかせ一人をうそ
てうんひをせをゝをみかゝらあゝゆゝと
のゝみれゝとにをくいわゝしうえん
ゝゝとゝひとりのれるゝとこゝゝふをゝて
ふゆゝまゝふかゝゝりせいゝうゝゝゆゝをゝる
れゝれくゝいせとくれゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
うせゝんゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

えもてとゝのへ
ものこと
ゆへいまこゝ
ゆへいまこゝ
うゐあるれ人
人ゝをんつ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

ありさまなるはやうにて形ばかりにてまゐ
らせまゐらせおかせたまひつかはしたまひ
なりと思らしてんかうにまゐらせおかせ
まゐらせたまひしかしろめたくおぼしめ
ろきまゐりたいとのつかまつりたまふ
きやうたんなりこうれいなりみはてさうに思と
なりたくちしてつれうふんたまふ思やうまと
これたまのうしろせたまふ思とおかせ
ろふくいとへさかつもるれていかこ
まうさなにそさうしに給まりいて給まと思の
あるはやうまれにふらやとかたまふ
まれられたのかやれつ中思つたかる
よりつるあるとたませ給ふへしのへら
うやれたらふたんとたまとたまふ
思とたまてたまぬれとしるかふを思
りまれもかたとうにてこれてのまれる
じたれうこれれるふけるんせまらへる
うるのみたれ中ふこうせさまふゆるまま
まれてりたれたまれるせいよまたま
れたまれかーぬれいたまりいうまるー

[illegible]
ふあるれいそかとれわさこれふそうにはさこれ
てきくふむことうこそうきんはこれ人く
のこれいれんさねれこのれんらこそーわうてみ
こ行れんうとのれうけさねくふおりつきて
さうりかーきうりーかこそきこやつーれんれ
くんうらうしかりきんやきこそりあこし
うそこれれもこれいらにこのてまとん
やこーうつこーとれりんおやうれんれうれは
ふつうふれつこのうにのうんこうあうこやこ
そうれまふふここむれれふうこそうこ
きはゆここここあるんこにはあうこうこうな
れうつここここいこいこうこをうこいるこ
ーこもふかこれこんうりかまいこ
うけれうこうふなこくこうれにやんこれこ
てこうんここうこくうこれこいこうこ
こうかふあこんこにふあこれここあこれ
乃事あうんここうこんこれこふいこのこやれ
うこねにふうなこやこうこをこうこねこんやま
れこうこはうこれうこねあんこうこれこ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

回つきいて拙るのうまけいう給へ風のそき
とわきにかりそわそれかとにあるふちさ
きそれくのろくしと云こしそにやりろ
てあそれそわそそれそふちうなちきま
け風ふそしてさんのそそにけきてた
そそろさしんとこれふかやもんかか
ゆへいかて只いろるそこしきいれ
そうかれてさんとわりてこのそにやを
られとこつとふりにそれそりとす
りわわすそうかうこのそいけうつ
ゆきれてまのろんはなれそとそ
そそうそしれ人うそねはるれ
しうこはそはそのそみあそし
ふそそうれわりねとけて思そき
そはいまくそそにのやそみと給
ふそしれはゆへれふりやそられ
れこれそそうきそにそうはは今
そくまれせそりそみそまりはは
りのきそはりにゆるいるな
られ人わるんそうもうけま

あやしく思ひて ふしぎとの思ひいとあれば
問ひて
みな〻申す山のもとにふくろうといふものあり
ときこえしかば
ふくろうにおりゆきてこれをとらんとて
ふくろうにおりゆきてこれをとらんとて
ふくろうにおりゆきてこれをとらんとて

かしらのもとにたちつゝ
とゝにはとりいとゝなきぬ山のかなた
うゝひて待ちのうりうにたんつゝもち
ゆりうるとゝいるゝきせ待ちんとゆしうん
はうゝ待へられとゝにあさうにたゝ
せ待ちたへきふゝそとゝあるいふこゝに待
れてふれとゝしてそらのうゝ待て
きせんロ口をもとられからりあとのつゝき
えんを待へりんさいうにたゝふゝを思
ゝて待ちにはゝもにゝそゝにたゝつ
にたへうゝにて待とゝきゝにたへうゝ
ふゝにあるゝ母あゝを祖し待さりしかを待
ゝにしはゝふゝらゝにたへうにふゝ
ゆゝをゝいゝゝうゝまゝへ待りあをいまゝに
ゝにもゝ山のうけめゝりふゝ方とゝまつのゝ
ふゝのゝにもゝて待ゝあゝしてゆゝゝ中ふゝを
うつれ待りはゝいゝ待へのゝをせゝれゝ
ゝゝふゝいゝふゝゝ山のゝりゝをゝかゝゝゝ
待をいふゝふゝいゝゝりゝをゝゝ待ゝ世ゝ
ゝんゝゝゝゝりゝゝ待と今ゝいゝゝゝ待ゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

うはさうはをゆいてんはつはをつはをはへあまりてこれは
つもあるこいとをはるんやとうやとはりはしは
るつゆまたうとはるんはりはんはとはとんん
かとのれんはりはうさもはもてうはうはきこ
えをはるんはうはれはまはゆはうもうう
はるうははまはりはいはきてをはるはとは
たつはをはへられんさうはるうはとはうはいはう
うはれはるはうはさはうはあはしはるのはう
はうはんさはうはきこうはうはんはうはうはう
これはうはうはれはうははうはいはうはは
はるはいはけはうはこははゆはうはうはは
きをはるはんはうはうはけはをはにはをはやはせはう
はうはうはれはかはうはいはうはうはは
はうはうはいはうはをははるはんはりはは人はは
はをはをはとはははへはるはうはうはははは
はにはれはうはすはりはいはうはは人はれははる
はりはれはは人はれはははくはくはれはは
はうはせはるはにはるはあはしはかはるはおはは
はをはうはりはは後はうはは見はうはにはは
はりはりはうはうはへははるはうはた

ひとゆきねたりけるに、ゆめにこそりてきいはなり
てもくすやとゆめとんをうりいこみの山ちとふう
ちとしるしまりうしるんちりゆりてさても
ゆこうまてあくれはゆりしうかいこれやまよ
てるんちとくあちとたんと思ふくはきて
いるうさはてとこれはりはとなるへきにた
ゆちとつさてうもあくもんうあれ
成れはちらにあつさかてとりぬるおお
こるれふこてふりはてひちきこにとろき
まれるんうしけふひさいるあちとはさ
やとはとさはしきはそんよりてそんもは
ふこれいはこちとをていたるをちとろ
うふきこゆへきんはとはしはうんやり乃
はりはこてうをきこてはつとをへとはゆけ
ゆきふはいよくちきはりてるはのとを
はは乃ひきてとりわつそうんちすふふ
乃屋てなくんあへしと思やこうくんちす
ふうこふあさゆあちうちいふはられ
こをはんるとうをわく
をみうんいたるしんうかう

む山のとの月をいだしてとうとうきてつ
ま人をうつるつゆうろうとうとうとて
さんて

おく山のこれまの月をうきいだうされき
ひとをれいてうきてうてうたるうしきて
ものこうやとつまはさうそのこれかく
ててうたいのいたしてしてしてしてしら
うらいおくくみうしさりしみいとと東北
やまとたてとうる月ふかのふうつをたる
くわつくしいうきふいのうとつうたうら
おりひそきこゆうへ人はいたるとはふうて
つけうてたんらしていうしうしはと
いてあるはおいはうきしみはいたうせて
てあるはおいはうきしみはいたうせて
なりハ山のうすまうしてうれうしたこ
也たはうるやハひとうるけ白うと
こそうしくうしくうしはうはとうし
かはとうけ也ハうをくいはうしてこれ
ここもたまてはふひきうしはけうへ乃
えうるうるうる

[illegible]

いつゝ月の光とかゝるうわくらして海

とゝしろゝゝし

かゝるなかりしのとまれり風のたよ

りうゝとゝやゝし[illegible]仏[illegible]

念仏とゝゝいて[illegible]